

サブアキュートにおける地域連携促進のための地域ルール構築に向けた取り組み
～医療と介護の双方を必要とする方の入院閾値を決める4つの要素から考える～

カテゴリー：5. 病院と在宅医療が連動/連携する活動(3. 4. 以外)

星野大和 1) 2) 佐々木穰史 1) 松澤亮 1) 鈴木里彩 1) 沼沢祥行 1) 川越正平 1)

1) 松戸市在宅医療・介護連携支援センター

2) 医療法人財団はるたか会あおぞら診療所新松戸

【目的】サブアキュート（在宅療養中に症状が急性増悪し医療と介護の需要が高まるが、急性期病院に入院するほどでない状態）の地域連携における課題を抽出し、解決するための地域ルールを策定した。

【方法】医師会員からのヒアリングと後方支援病院のインタビューをもとに公開の場で討議した。

【結果】医師会員から以下の課題を抽出した。

①後方支援病院の機能がわからない

②サブアキュートの入院適否や相談手順がわからない

病院側から以下の課題を抽出した。

③ 17時までならできるだけ緊急の入院依頼に対応したい

④在宅患者は退院支援にあたり困難に陥ることが少なくない

交流会には、各院院長と連携室職員、地域医療に携わる多職種、地域包括支援センターや市職員など75名が参加した。

①に対し、各院が機能や受け入れ体制を説明した。

②-④について、各院長と在宅医を登壇者とするシンポジウムを開催し議論した。

- ・サブアキュート病態の場合、後方支援病院入院か在宅治療継続を考慮する
- ・入院閾値は家族対応力、環境変化適応力、チーム対応力、意思決定支援の4要素によって変動する
- ・急性期病院入院を回避することで、入院関連機能障害や望まない医療の実施などのリスクを低減できる

議論の結果を踏まえ、以下の地域ルールを策定した。

- ・サブアキュート病態への対応は医療と介護の需要増と、4要素で決まる

- ・入院の必要性や病院選定は、医療の専権事項ではなく、医療介護多職種間で考える

- ・後方支援病院には平日15時までには相談する

- ・患者が抱える課題や退院のゴール、希望する検査治療、すでに合意している治療ケア方針等を情報提供する

- ・夜間土日の場合、在宅で治療を開始し、経過に応じて適切な療養場所を判断する

【考察】在宅医と病院の双方から意見を事前に収集、課題化し、院長を招聘した公の場で議論することによって、地域ルール策定に至った。この策定手法には普遍性があり、他の課題にも援用可能である。